

# 算数科学習指導案

日 時 平成28年2月18日(木) 5校時  
場 所 増毛町立増毛小学校 1年教室  
児童生徒 第1学年A組(27名)  
指 導 者 教 諭 河端 寿幸

1. 単元名 「17 どんなしきになるかな」

2. 単元について ※省 略

3. 研究の視点

(1) 主体的な学びを生む学習活動

## ①学ぶ内容と解決の方法を見通す活動の設定と工夫(やってみたい)(考えたい)

この単元の問題は、問題場面の把握をしっかり行っていかなければ何算にするのか混同してしまうところである。そのため問題場面をより把握でき、子どもたちが興味関心をもてるような問題提示をしていく。子ども達のつぶやきを板書しながら、場面を整理して、見通しをもたせることで、「できそう」から「考えたい」という気持ちに高められるよう取り組みさせていきたいと考える。

また、各時間の問題解決へ生かされるように、導入時にフラッシュカードで関連する事項を復習させるとともに、易しい問題で声を出させることで児童の学習意欲の喚起も図っていきたいと考える。

## ②学びの過程や結果を振り返り、次の学びへとつなげる活動の設定と指導の在り方(学びたい)

毎時の終末に振り返り問題(類似問題)に取り組みさせることで、本時の学びを確かなものとするとともに、交流したことなどを生かしながら、類似問題が解けることにより、さらに「学びたい」という気持ちに高めていく。

1年生という発達段階を踏まえると、1時間の振り返りを文章表記にし、理解状態を診断することは難しいと思われるので、簡単な記号による自己評価を行い、学習への意欲面を見取りたい。

また、ノートは間違えても書いたことは消さずに残すようにすることで思考の過程を見取ったり、振り返り問題の習熟の様子から、本時の目標が達成したのかを見取ったりと、次時の指導改善へとつなげるようにしていきたい。

(2) 思考力・表現力を育成する活動の工夫

## ①学びをつなぎ、筋道立てて考え、根拠や理由を示して伝える活動の工夫(話したい)(聞きたい)

ノートに思考の過程を残し、簡単な図や絵、矢印など相手意識をもって整理できるようにしていく。そして、自分が考えたことを順序立てて説明したり、指を指しながら伝えたりすることを交流時のポイントとして、意識させることで、より分かりやすく伝えられるようにしていきたい。

また、分かりやすく伝えるノートを作成できるよう、前単元までの学習で、簡単な図や絵、矢印、文などを使った手本となるノートづくりを紹介していき、意欲を高めていきたい。

## ②解決のきっかけをつかみ、考えを深めるための交流の工夫(聞きたい)(やってみたい)

友達がどのような解き方をしたのか自分と比べながら聞くことができるように、交流のポイントを伝えながら組み立てていく。(話す側には、「指を指しながら分かりやすく伝えよう。」聞く側には、「自分と比べて聞こう」)

自分の考えがもてなかった子には、ペア交流・全体交流を通し、解決のきっかけをつかませる。そして、終末の類似問題で、もう一度、挑戦してみようという気持ちを高めていきたい。

#### 4 単元の目標と評価規準

##### (1) 単元の目標

- 順序数を集合数に置きかえて考える場合の加法や減法の意味を知り、問題を解決することができる。
- 求大、求小の場面の加法や減法の意味を知り、問題を解決することができる。

##### (2) 単元の評価規準

関心・意欲・態度	数学的な考え方	技能	知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> <li>・順序数や求大、求小の場面で、積み木を操作したり、図に表したりして場面をとらえようとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・順序数や求大、求小の場面で、積み木や図などを用いて考えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・順序数や求大、求小の場面を式に表すことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・順序数や求大、求小の場面で加法や減法が用いられる場合を理解している。</li> </ul>

#### 5 単元の指導計画（4時間）

※省略

時数	主な学習活動
1	 <p>1 かなさんはまえから5ばんめにいます。かなさんのうしろには3人います。 ぜんぶでなん人もいるでしょうか。</p>
2	 <p>【問題】 9人ならんでいます。 さとしさんはまえから4ばんめです。 さとしさんのうしろになん人もいるでしょうか。</p>
3 本時	<p>【問題】 かわばた先生は、どんぐりを6こひろいました。 おかむら先生は、かわばた先生より4こおおくひろったそうです。 おかむら先生はなんこひろったのでしょうか。</p>
4	<p>【問題】 よしひろ先生は、まめを7こたべました。 むらい先生は、よしひろ先生より2こすくなかったそうです。 むらい先生はなんこたべたのでしょうか。</p>

6 本時について

(1) 本時の目標

- ・求大の場面で、図などを用いて考えている。(数学的な考え)

問題把握 10分

◎フラッシュカード

- ・繰り上がりのないたし算カードを答える。

◎問題を配り、場面を把握させる。

【問題】

かわばた先生は どんぐりを 6こ ひろいました。  
 おかむら先生は かわばた先生より 4こ おおく ひろいました。  
 おかむら先生は なんこ ひろったでしょうか。

- ・問題を読む。

◎何を求める問題かな？

- ・おかむら先生が何個拾ったか！ ・どんぐりの数

◎かわばた先生は、何個拾ったの？

- ・6こ。

◎どちらの方が多く拾ってますか？

- ・おかむら先生。
- ・かわばた先生よりも4こ多く拾ってるから。

◎何算になるのかな？

【課題】

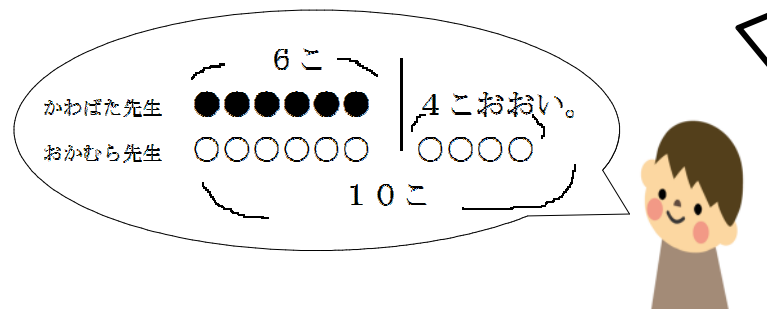
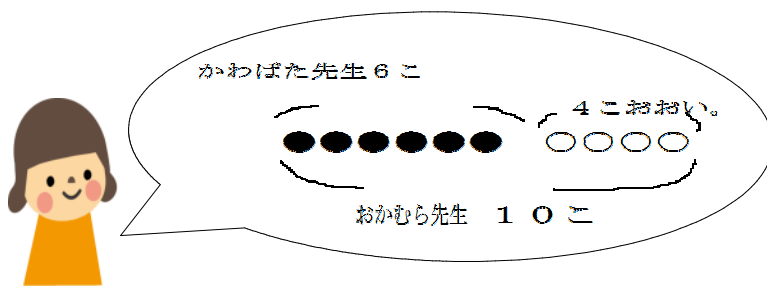
**ずをかくて、かんがえてみよう。**

- ・課題をノートに書き、課題を読む。

◎ノートに、図で表してみよう。

- ・図をかくて考える。

自力解決 10分



視点1

主体的な学びを生む学習活動

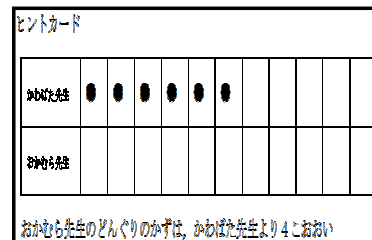
問題解決へ生かされるように、導入時にフラッシュカードで関連する事項を復習させ、解決への見通しにつなげていきたい。

視点1

主体的な学びを生む学習活動

問題場面の確認を全体で行い、共有化することで、解決の見通しをもたせ、「やってみよう」や「考えよう」の気持ちを高めるようにしていきたい。

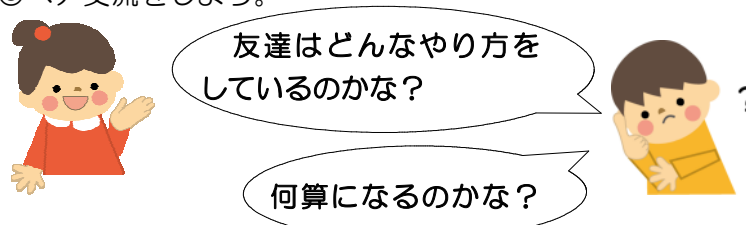
○解決が困難な子には、ミニ百玉そろばんをもたせ、どのように玉を動かすとよいのか考えさせたり、ヒントカードをもたせたりするようにする。



視点2

思考力・表現力を育成する活動の工夫

簡単な図や矢印などを使ってノートに整理するとともに、交流のポイントを伝え相手意識を高めて交流できるようにしていきたい。

<p>交 流 1 4 分</p>	<p>◎ペア交流をしよう。</p>  <p>◎数人の子を指名し全体交流させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実物投影機でノートを映し、自分の考えを発表する。</li> <li>・ノートにまとめを書く。</li> </ul> <p><b>ずでかくと、どんなしきにするとよいかわかりやすい。</b></p>	<p>○比べて聞けるようポイントを伝えてから交流させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・話す側 「指を指しながら分かりやすく伝えよう。」</li> <li>・聞く側 「自分と比べて聞こう」</li> </ul> <p>【数学的な考え方】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・求大の場面で、図などを用いて考えることができる。 (ノート・発表)</li> </ul> <p>○全体交流では、図を上手にまとめている子のノートをピックアップし、式につながるようにしていきたい。</p>
<p>振 り 返 り 1 0 分</p>	<p>【問題】 よしひろ先生は 本を5さつよみました。 かわばた先生は よしひろ先生より 4さつおおくよみました。 かわばた先生は なんさつよんだでしょうか。</p> <p>◎類似問題（プリント）に挑戦してみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・みんなで読む。問題に取り組む。</li> <li>・式と答えを出す。</li> </ul> <p>◎できた子同士で、説明し合おう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・説明し合う。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全体で答え合わせをし確認する。</li> <li>・プリントに自己評価をして、ノートに貼る。</li> </ul>	<p><b>視点1</b> <b>主体的な学びを生む学習活動</b> 振り返り問題を通し、理解状況を把握するとともに、自己評価の場面を作り、次時への意欲へとつなげる手立てとしたい。</p> <p>○解決に困っている子は教師の下に集め、再度説明し、解決できるように支援していく。</p> <p>【知識・理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・求大の場面で加法が用いられる場合を理解することができる。(類似問題)</li> </ul>

7 板書計画

かわばた先生は どんぐりを 6こ ひろいました。  
おかむら先生は かわばた先生より 4こ おおく ひろいました。  
おかむら先生は なんこ ひろったでしょうか。

**ずをかいて、かんがえてみよう。**



かわばた先生 6こ      4こ おおい

おかむら先生  
しき  $6 + 4 = 10$   
こたえ 10こ

よしひろ先生は 本を5さつよみました。  
かわばた先生は よしひろ先生より 4さつおおくよみました。  
かわばた先生は なんさつよんだでしょうか。

おかむら先生は？こ 4こおおい

かわばた先生は 6こ

たしざん？  
ひきざん？

**ずでかくと、どんなしきにするとよいかわかりやすい。**

しき  $5 + 4 = 9$   
こたえ 9さつ

たしざん